

近畿大学医学部微生物学（旧細菌学）教室の歴代教授： 国際化の架け橋を引き継いで

4代目 微生物学教授 角田 郁生

当教室の歴史は、1974年（昭和49年）4月1日の近畿大学医学部設立と同時に開設された、細菌学教室（Department of Bacteriology）にその端を発します。初代教授として山口淳二先生が着任され、教室の教育・研究（マクロファージ・EBウイルスなど）を軌道に乗せられました。山口先生は医学研究科（大学院）専攻分野として「病理学系細菌学」を開講されました。以後21年間にわたる教室運営の後、1995年（平成7年）3月に退任されました（同5月まで教授代行）。

1995年（平成7年）6月からは、倉根一郎先生が2代目教授として着任され、電子顕微鏡を用いたHIVの研究等を進められ

ました。教室の英語名を Department of Microbiology に変更されたのも倉根先生です。倉根先生は1998年（平成10年）3月に退任され、その後は国立感染症研究所部長（後に所長）に転任されました。

1998年（平成10年）6月からは、義江修先生が3代目教授として塩野義製薬株式会社医科学研究所より赴任されました。義江先生は18年間にわたりケモカイン研究を軸とした教室運営をされ、医学研究科・専攻分野の名称を「細胞機能制御学」へと変更されました。医学部運営においては教学部長を務められ、2016年（平成28年）3月に退任されました。

2016年（平成28年）4月からは、私、角田



初代教授 山口淳二 先生



2代目教授 倉根一郎 先生



3代目教授 義江 修 先生



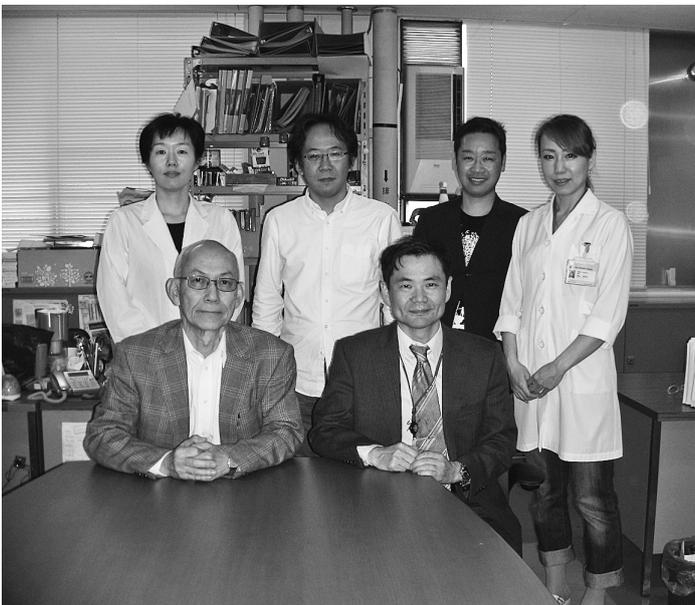
4代目教授 角田郁生 先生

郁生が4代目教授として、ルイジアナ州立大学医学部微生物学・免疫学講座より赴任いたしました(角田郁生、「教授ご就任挨拶」近畿大学医学部同窓会会報第15号, p8, 2016年)。これと同時に教室の名称は「微生物学」へ、また医学研究科・専攻分野の名称は「神経ウイルス学・免疫学 Neurovirology/ Neuroimmunology」へと変更され、幅広く細菌学・真菌学・ウイルス学・感染免疫学の教育・研究を手掛けております。

近畿大学医学部は、創成期には「関東の慶應大学」を意識した「関西の近畿大学」を目指しており、山口教授は東北大学代表のひとりとして赴任されました(菊池啓、「叔父：山口淳二教授の思い出」近畿大学医学部同窓会会報第18号, p67-68, 2019年)。以来、本教室の歴代の4教授は全員が東北大出身です。初代教授の山口先生にはご面会をお願いしていたのですが、「体調が回復したら」というご返答をいただいた後、ご面会叶わぬまま、2019年2月にご逝去されました。倉根先生は日本

ウイルス学会で理事長・会長を歴任され、同学会の英語化・国際化に長年貢献されており、その潮流の中で大学後輩の私にも声をかけてくださいました。義江先生は、私が東北大学医学部に学生として在籍中すでに細菌学の助教授をされており、ご講義を拝聴したのを覚えております。

私は近畿大学赴任前の21年間、米国に在住しておりました。その間に義江先生には近畿大学での招待講演を企画していただくなど、米国在住の私と日本とをつなぐ架け橋となって頂きました。赴任後には、倉根先生が日中ウイルス国際学会を開催され、そこに私を招待してくださいました。そして2021年現在、当教室には二人のMEXT国費外国人留学生 Sundar Khadka さん(ネパール)と Ijaz Ahmad さん(パキスタン)が大学院生として所属しています。歴代教授に架けていただいた世界への橋を、より強固に、さらに遠方にまで架けていけるよう、今後とも尽力していきたい所存です。



2016年4月、(前列左)義江修3代目教授から(同右)4代目角田郁生への引継ぎ(後列左から)朴雅美講師、中山隆志薬学部教授(旧細菌学在籍時は講師)、藤田貢准教授、崎山奈美江実験助手



2018年5月、中国武漢で、倉根一郎先生(左、2代目細菌学教授)主催の日中ウイルス学会に参加した角田郁生(右)